

英連邦戦死者墓地に案内パネル板設置

2015年7月24日、横浜市保土ヶ谷区の英連邦戦死者墓地に、墓地の歴史を記した案内パネル板が設置され、24日午前10時からその除幕式が行われました。

除幕式には、英連邦墓地委員会役員、英国大使館関係者、瀬戸ヶ谷小学校5年生の子どもたち十数名、墓地の造園と日頃のメンテナンスを担当している小林賢吾さんとスタッフ数名、そして笹本妙子さん、田村佳子さんをはじめとするPOW研究会メンバー7名など、計40名ほどが参加しました。

英連邦戦争墓地委員会副代表のジョセフ・フレンチ卿が挨拶をし、「英連邦戦争墓地委員会は、世界150か国に2万カ所以上の墓地を管理しており、そこには約150万人の英連邦の戦死者が埋葬されています。ここは日本で唯一の英連邦戦死者墓地で、第2次世界大戦で亡くなった約1700人の英国、オーストラリア、インドなど英連邦の戦死者が埋葬されています」と英連邦墓地について話しました。そして今度説明板が設置されたことにより、「自由のために戦った戦死者の国への貢献や、遺族が味わった困難に、今まで以上に思いを寄せることができるようになりました」と、その意義を語りました。



英語のパネルを除幕するフレンチ卿



日本語のパネルを除幕した子どもたち

続いてフレンチ卿自身が英語で書かれたパネルの、そして瀬戸ヶ谷小学校の子どもたちが日本語で書かれたパネルの幕を取り払うと、大きな拍手が起こりました。両方のパネルには、どちらもこの英連邦墓地の由来について書いてあり、墓地を訪れる人は誰でも墓地の歴史を知ることが出来るようになりました。

次に英国大使館を代表して参事官のスー・木下さんが挨拶をしました。



挨拶するスー・木下さん

続いてPOW研究会から事務局長の笹本妙子さんが日本語で、田村佳子さんが英語でスピーチをしました。笹本さん田村さんは英連邦墓地の近くに住み、その存在を知りながらもそれが何を意味するのか長い間分からなかった、という過去を振り返り、真実を知りたくて日本国内の捕虜収容所や捕虜の研究を、仲間と一緒に進めてきたと話しました。そして「このパネル板の設置によって、多くの人が戦争捕虜のたどった苦難の歴史を知ることが出来るのは大変重要なこと、今までこのような説明板を設置することを求めてきたので、それが実現して感慨無量です。」と語りました。

いつもこの英連邦戦死者墓地は美しく整備されていますが、当日は真夏の太陽に照らされて、芝生の緑もひとときわ鮮やでした。そして墓標ごとに植えられた英国国花のバラが咲き誇り、除幕式の式典に文字通り花を添えていました。

(小宮まゆみ)



挨拶する笹本さん（右）と田村さん



案内パネル（英語）



案内パネル（日本語）